

「室井議員」

再質問でないという、質問ってあるんですか。なぜ止めないんですか。再質問でなかったら。無駄にしゃべっていいんですか。

(議長)

はい、分かりました。

「室井議員」

議長と議運の委員長でちゃんと連携してやりなさい。

(議長)

はい、分かりました。

出崎議員。今の言ってるのはですね、意見とかってことは言うのは駄目だと。よって私もですね、親切にしたんですけども、そういう意見がありましたので、質問以外に意見を言うということについては、これは私は今度は受けませんので、ご理解をして頂きたい。

(議長)

次に大門議員の一般質問です。

はい、大門議員。

「大門議員」

はい。私からの質問はですね、町道尾山田沢線雨水排水について質問いたします。

田沢橋の尾山町側にある山端宅前の雨水排水溝は、降雨量が多い時、排水が間に合わなく溢ます。住宅前が浸水する状態になります。現在は、降雨が予想される時に土嚢積みにて対応しておりますが、住民の方は不安で寝れない時も有るとの声があります。ついては、排水溝の改良が必要と考えますが、今後の対応について検討がなされているのか伺います。

(議長)

はい、町長。

「町長」

大門議員からの町道尾山田沢線の雨水対策についてのご質問に対しまして、ご答弁申し上げます。議員ご指摘の箇所につきましては、過去の降雨時において、町道の排水が飲み切れず、道路に接する周辺地域が浸水するなどの被害があったことについては、承知をしているところでございます。当時、周辺道路排水のほとんどが当該箇所に集中する状態と

なっており、これまで周辺道路の排水を分散させるための対策などの措置を講じてきたところでございます。その結果、この数年の降雨におきましては、浸水被害等は発生しておらず、一定の効果が得られているものと考えております。しかしながら近年の全国的な異常気象による短時間で集中して降る、いわゆるゲリラ豪雨等が各地で発生している状況であり、議員ご指摘の箇所を含め、町内の複数の注視すべき箇所もございます。今後につきましては、これまで同様、土嚢の配置等、防災減災対策等各関係課が連携して対応してまいりたいと考えておりますので、ご理解を願いたいと思います。

(議長)

大門議員いいですか。

「大門議員」

はい。

(議長)

以上で大門議員の一般質問を終わります。

(議長)

次に、小野寺議員の発言を許可いたします。

小野寺議員。

「小野寺議員」

3点質問いたします。まず、最初に、今、テレビ、新聞でも賑わしておりますが、核ごみ、いわゆる高レベル放射性廃棄物について、町長の認識をお聞きしたい。この問題について、取り上げていきたいと思っております。

ご承知のとおり、この問題、国と電力会社、今、原発利用を推し進めております。そして、処理困難な核のごみ、これを大量に今、発生させてきております。その責任を棚上げにして、処分場を自治体に押し付けようとしていることが、今、この問題の背景にあると私は思います。いわゆる、この高レベル放射性廃棄物、核ごみ、この最終処分場は、2002年から公募してきておりますが、全国で住民の反対が強くて、受け入れた自治体はありませんでした。ヨーロッパ、アメリカも含めて、地層処分が想定されておりますが、ここが違うのは、日本列島、4つのプレートがぶつかりあって、地殻変動が大変活発なところであり、ヨーロッパ大陸と日本とは、地層の安定性が大きく異なっております。見えている火山や活断層さえ避ければいい、そういう今、政府の考え方は、あまりにも安易な、そして、無責任なことであると思っております。ご承知かと思っておりますが、日本学術会議、こういう団体がありますが、ここで地層処分について、万年単位に及ぶ超長期に渡って安定した